ISSN 2434-3900

NEUROTRAUMATOLOGY

神経外傷 Vol.45 別冊 2022

日本頭部外傷データバンク
業績目録
2011年～2020年

一般社団法人 日本脳神経外傷学会機関誌
Official Journal of The Japan Society of Neurotraumatology

神経外傷／第45巻／別冊

日本頭部外傷データバンク
業績目録 2011年～2020年

日本頭部外傷データバンク検討委員会
【日本脳神経外傷学会】

令和4年9月作成

目　次

日本頭部外傷データバンク
業績目録
（2011年～2020年）

日本頭部外傷データバンクの設立とその後　小野　純一……S01

「日本頭部外傷データバンク」とは何か,
そして何処へ行くのか？　鈴木　倫保……S03

頭部外傷データバンクの意義　横田　裕行……S05

日本頭部外傷データバンクの歩み……S07

学会発表・論文発表の推移……S09

学会発表（2011年～2020年）……S10

論　　文（2011年～2020年）……S30

頭部外傷データバンク委員会の構成およびメンバー……S41

編集後記……S47

日本頭部外傷データバンクの設立とその後

小野 純一
地方独立行政法人 さんむ医療センター 脳神経外科
（前千葉県循環器病センター病院長）

日本頭部外傷データバンク（Japan Neurotrauma Data Bank: JNTDB）の研究が開始されて，準備委員会の時期を含めると早 26 年が経過しました。このたび第 2 回目の業績目録が作成されることになり，大変感慨深いものがあります。

頭部外傷の臨床的・疫学的研究は，欧米ではすでに 1970 年代後半から行われていましたが，わが国ではその当時大学単位，病院単位での研究しか行われていませんでした。そのような状況で 1991 年に J Neurosurg suppl. に発表された「The Traumatic Coma Data Bank」の論文の膨大な内容には驚かされ，わが国においても頭部外傷の多施設共同研究の必要性が論じられるようになっていました。その後 1993 年から熊本頭部外傷データバンク（熊本赤十字病院・丸林徹先生），宮城頭部外傷研究会多施設共同登録調査（仙台市立病院・小沼武英先生）が開始されました。1994 年になり，東京慈恵会医科大学の故中村紀夫教授がわが国における頭部外傷の多施設共同研究の必要性を，日本脳神経外科学会，日本神経外傷研究会（当時）に諮り，両学会で支持を得て，1996 年 5 月に第 1 回検討委員会が開かれました。現在の JNTDB の研究活動は，故中村先生の熱意と並々ならぬご尽力，さらにそれを引き継がれて発展させた千葉大学の山浦晶教授，久留米大学の重森稔教授のご指導の賜物であります。また会議のオブザーバーとして，警察庁交通局，交通事故総合分析センター，総務庁などの公的組織に了解を得たのも故中村先生のご功績であります。

JNTDB の最初の活動は，頭部外傷データシート（プロトコール）の作成でありました。その基礎となったものは 1985 年に私が留学していた University of California, San Diego の Marshall LF 教授からいただいた Traumatic Coma Data Bank のプロトコールと熊本赤十字病院の丸林先生からご教授いただいた熊本頭部外傷データバンクのデータシートであります。作成委員は故中村先生を中心に，小川武希先生（東京慈恵会医科大学），徳富孝志先生（久留米大学），川又達朗先生（日本大学），坂本哲也先

生（公立昭和病院，当時）と私（千葉大学，当時）でありました。作成会議は東京（六本木，秋葉原）で何回も開かれ検討に検討を重ねて，最終的には 388 項目の膨大なデータシートが作成されました。

JNTDB の研究活動は 1997 年の Pilot study をはじめとして，Project（P）1998, P2004, P2009, P2015 の 4 つの full study，また P 研究が日本の頭部外傷の実状を反映しているか否かを検証するために，One Week Study（OWS）が 3 回（OWS 2005, OWS 2012, OWS 2016）施行されました。この間データシート作成には種々の議論がありました。P1998 では前述のように 388 項目の検討でしたが，調査項目が完全に記載されていましたのが，集積された 1002 例のうちの 60%弱でありました。その結果からデータシートの項目数を減らしたり，加えたり，また調査項目の変更・追加等というように試行錯誤しました。もう一つの問題点は研究の悉皆性であります。当初は故中村先生のご意向により施設限定（責任者が頭部外傷を専門）で行われましたが，P2015 からは悉皆性を考慮し，研究参加を公募して施行しました。このように種々議論を重ねながら研究は進んできました。データの管理は，当初東京慈恵会医科大学の小川先生が事務局として尽力されておりましたが，次第に管理の倫理的問題が生じて，株式会社アジャスト（代表：横溝宏昌氏）に依頼して行って参りました。2023 年には新たな P 研究が行われると聞いております。臨床研究が難しくなった時代ではありますが，研究が成功することを祈っています。

JNTDB 検討委員会は，2000 年当時の日本神経外傷学会の会長でありました児玉南海雄教授（福島県立医科大学）のご尽力で，本学会の正式な委員会に位置づけられ，現在では本学会の重要な事業の一つとなっております。またデータ管理のための費用も学会が予算化してくれています。

JNTDB 開始から 2020 年までの 23 年間に，学会発表 348 題，論文発表 134 編が蓄積されたとのことであり，本委員会の誇れる業績と思われます。これらの業績が脳神経外科医のみならず，外傷を扱っている医師の頭部外傷診療の参考になり，またガイドライン作成のための基礎資料になることを願っています。最後に頭部外傷の発生件数は減少していますが，JNTDB 研究が継続され，さらに発展することを祈念しております。

日本頭部外傷
データバンク
業績目録

「日本頭部外傷データバンク」とは何か，そして何処へ行くのか？

鈴木 倫保
間中病院／山口大学大学院医学研究科

冒頭のタイトルから，ぎょっとされた方も多いと思われるが，小生が委員長のバトンを頂戴した際には大いに苦慮した問題だった。勿論，我が国における日本頭部外傷データバンク（JNTDB）は，多くの業績を生み出し，ガイドライン作成にも大きな役割を果たしてきた。更に重要なことは，若い頭部外傷治療医や研究者の受け皿となって，彼らを力強く育ててきたことだ。しかしその内容を吟味すると，再考すべき点もある。これまでのプロジェクト毎の登録数は約 1000 例程度で，登録施設も全国に均霑化しているわけではない。One week study で均霑化を検証するべく努力しているが，1 週間の登録に過ぎない。登録施設もプロジェクト毎に異なっており，定点観測とも言えない。さらに，頭部外傷の登録事業は外傷学会，救急医学会等でも行われて縦割り化している部分がある。手術に関しては外科学会主導の NCD もあるが，頭部外傷は非手術治療も大きな部分を占めている。欧米には，国境を越えた CENTER-TBI（Collaborative European NeuroTrauma Effectiveness Research in TBI, Dr. Andrew I.R. Maas）と TRACK-TBI（Transforming Research and Clinical Knowledge in Traumatic Brain, Prof. Geoffrey Manley）という巨大登録事業連合があり，多数例から画像・血液・遺伝子・疫学・予後データを抽出して多くの知見を得ている。薬剤・イメージング・センサー・血液／遺伝子サンプリング企業とのコラボレーションも密に行われており，新たな医業ビジネスモデルかもしれない。このような理由で，JNTDB の位置づけと方向性を次世代にどのように受け渡すかは大いに悩んだ。一方，参加施設および参加者の献身的努力により，登録項目は多岐にわたるにもかかわらず，欠測値も少なく記載が完遂されていることが，掛け替えのない長所だ。

本邦における各疾患の悉皆データベース構築に当たって，DPC コードを使用している研究チームがある。勿論，頭部外傷研究を同様な戦略で行っているチームもいくつか散見されるが，DPC コードでは頭部外傷の把握がかなり困難であるようだ。そのため，一刻

も早い nation wide の正確な頭部外傷データベースの創設が待たれていた。幸いなことに，脳神経外科学会の症例登録事業 JND（Japan Neurosurgery Database）が 2018 年から開始された。本事業は，専攻医の教育病院を中心に我が国の脳神経外科関連症例のほぼ全例を登録するレジストリーで，頭部外傷でも手術・非手術例の双方が登録されている。2020 年 8 月の集計では 57 万件の登録例中頭部外傷は 10 万を超えて 18.4%を占めており，脳血管障害（53.8%）に次いで第二位を占め，脳神経外科の中心となる疾患群だ。手術例でも全体の 22 万 5 千例中，5 万 2 千例（23.2%）で第 2 位だ。さらに JND データから，外傷手術総数の大きな変化はないが硬膜下血腫の有意な増加と硬膜外血腫の減少が明らかとなっている。このトレンドは我が国のみではなく，先進国共通の現状および将来の課題と捉える必要がある。このように，JND からは本邦の悉皆的頭部外傷疫学データが得られるため，JNTDB は他の研究に傾注しても良さそうだ。

Project 2015 は，これまでの登録データ＋α から，日本社会の変容を基盤とする脳神経外傷の変化を捉えることもテーマに加えた。すると，登録症例の 65 歳以上の高齢化率は初めて半数を超えて 51.7%となっていた。しかも予後の悪い talk & deteriorate（T/D）は高齢者群に多いことが確認された。高齢者群の 31%は抗血栓療法を施行され，抗血小板薬，抗凝固薬，両者，それぞれ 17%，9%，5%であった。抗血栓薬服用者の受傷原因の半数は転倒・転落であり，抗血栓薬服用者の頭蓋内出血は非服用者に比して有意に高かった。抗血栓薬服用中の高齢者における T/D は非服用者の約 2 倍と高率となっていたことには驚愕した。この状況は，本邦の脳神経外傷が「高齢化」と「抗血栓薬」によって大きく修飾されており，今後他の先進国においてもこの現象が強く危惧されることをグローバルに発信すべきだ。

頭部外傷データバンクの意義

横田 裕行
日本医科大学名誉教授／日本体育大学大学院保健医療学研究科長，教授

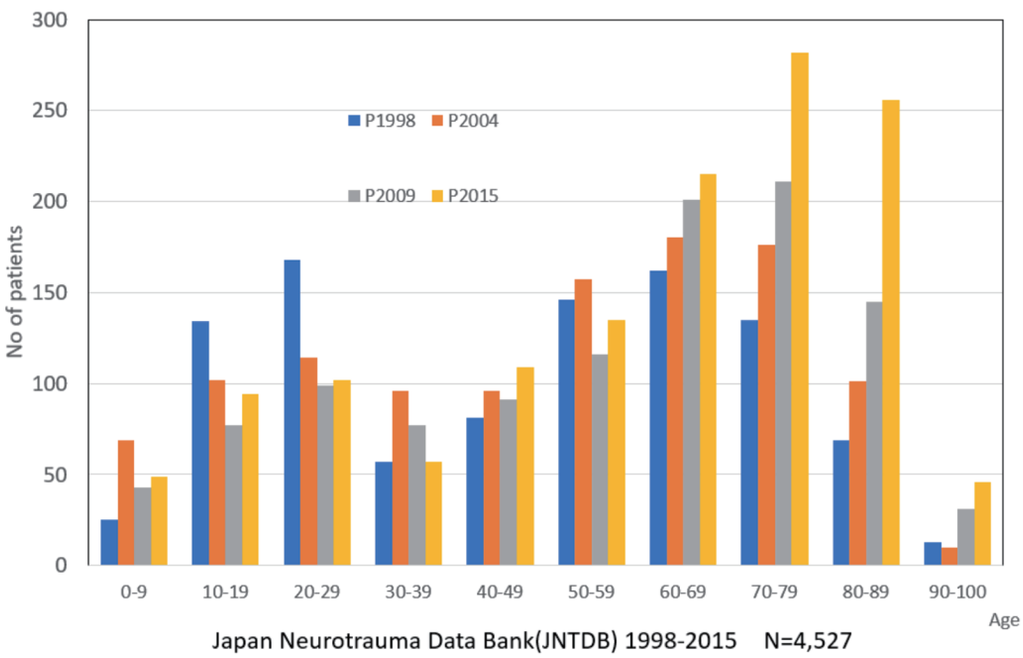
本邦における全国規模の頭部外傷データバンクは1996年に本学会の前身である日本神経外傷研究会の日本頭部外傷データバンク検討委員会で，故中村紀夫先生（東京慈恵会医科大学名誉教授），山浦晶先生（千葉大学名誉教授）や重森稔先生（久留米大学名誉教授）が中心となって，1997年に8施設でのパイロット研究として開始されたことが起源である。それまでは，例えば熊本赤十字病院や仙台市立病院等でそれぞれの地域で頭部外傷の患者登録がなされていたが，全国規模での登録は前述のパイロット研究が最初である。そして，翌年の1998年に重森稔先生と山浦晶先生の両委員長のもとで全国10施設による本格的な症例登録がProject 1998として開始され2001年までに重症1002例の登録がなされた。Project 1998は本邦における重症頭部外傷の疫学的視点を含めた治療や病態解明に極めて大きな貢献を果たし，全国的な頭部外傷データバンクの意義が認識され，その結果としてその後も継続的にデータ登録がなされている。すなわち，2004年から2006年に両委員長のもとで行われたProject 2004では19施設から1101例が登録され，2009年から2011年に行われたProject 2009（委員長：小野純一先生）では22施設から1091例，2015年から2017年に行われたProject 2015（委員長：鈴木倫保先生，横田裕行）では32施設から1345例の登録がなされた。

この間，データバンクに登録される症例が重症例を中心としているため，2005年6月には軽症例も含めたOne Week Studyが全国1319施設を対象に行われ，802例が登録された（回答率36.9%）。その結果，軽症例を含めた頭部外傷の実態を明らかにしたことは社会的にも大きな意義があったと考えている。

現在までに重症例を中心とした症例登録が上記のように4回行われてきたが，本邦で急速に進む少子高齢化，飲酒運転の厳罰化や救護義務等の道路交通法改正等々により頭部外傷データバンクに登録される症例の年齢構成や受傷機転に大きな変化があったことを示してきたことも頭部外傷データバンクの大きな意義と認識している。すなわち，次頁にあるようにProject 1998では登録された年代のピークは20代と60代にあり，しかも20代の登録件数の方が60代よりも多い状況であった。しかし，高齢者の登録数が次第に増加し，Project 2015では20代をはるかに上回るようになっている。ちなみに登録症例の中での65歳以上の割合はProject 1998では30.5%，Project 2004は34.6%，Project 2009は

43.9%，Project 2015 では半数以上の 51.7%にまで増加している。

このように本邦における重症頭部外傷の年齢構成が急速に高齢化し，しかも受傷機転は若年者を中心とした交通事故や労災等による高所墜落から，高齢者の日常生活における転倒・転落に変化している。これらのデータは高齢者における日常での外傷に対する注意喚起，特に抗血小板薬や抗凝固薬など抗血栓薬を服用している場合の注意喚起を促す Think Fast Campaign の背景となった。Think Fast Campaign は頭部外傷の診療に関わる日本脳神経外傷学会，日本脳神経外科学会，日本救急医学会や抗血栓薬を処方する機会が多い医師等の学術集団である日本脳卒中学会，日本循環器学会や脳卒中診療や予防の普及啓発活動を担っている日本脳卒中協会が協働し，製薬会社もそれを支援している活動で，頭部外傷データバンクからの資料が多用されている。



〔横堀将司, 他：我が国における高齢者重症頭部外傷の変遷：頭部外傷データバンクプロジェクト 1998～2015 からの検討．神経外傷 41(2)：71–80, 2018 から引用〕

平成 22 年 12 月に作成された日本頭部外傷データバンク業績目録や今回の業績目録でも明らかなように，頭部外傷データバンクの存在意義は，頭部外傷を疫学的視点から評価し，科学的根拠を持って新たな治療や管理法を検討することにある。そのような意味でも頭部外傷データバンク事業は今後も継続されるべきであり，同時に登録すべき項目に関しても常にブラッシュアップする必要があると認識している。また，これらの結果や成果を広く社会に発信し，本学会員だけではなく外傷診療に関わる全ての関係者や研究者，行政，消防，警察，患者さんやその家族，一般の皆様と協働してより質の高い頭部外傷診療の礎にすべきであると考えている。頭部外傷データバンクのさらなる発展と社会への貢献が期待されている。

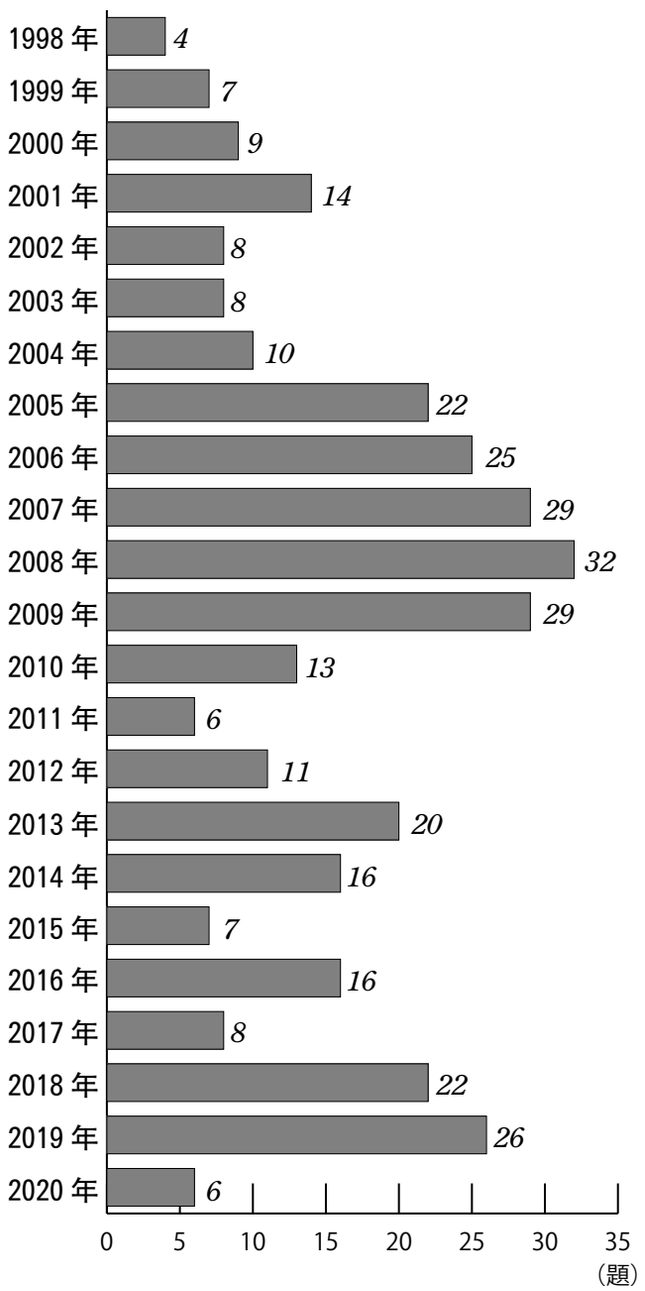
日本頭部外傷データバンクの歩み

年　月	項　目
1996 年	日本頭部外傷データバンク検討委員会発足 第 1 次研究プロトコール（データシート）検討・作成
1997 年	パイロット研究（8 施設），36 例集計
1998 年	プロジェクト 1998 開始（10 施設）
2000 年	重症頭部外傷治療・管理のガイドライン初版作成（神経外傷 Vol.23）
2001 年	プロジェクト 1998 終了，1,002 例集計
2002 年	頭部外傷データバンク検討委員会報告書（神経外傷 Vol.25, No.3）
2003 年	第 2 次研究プロトコール（データシート）検討・作成
2004 年	プロジェクト 2004 開始（19 施設） One Week Study プロトコール（データシート）検討・作成
2005 年 6 月	One Week Study（脳神経外科学会専門医訓練施設および一部の救命救急センター 321 施設），802 例集計
2006 年	プロジェクト 2004 終了，1,101 例集計 重症頭部外傷治療・管理のガイドライン第 2 版作成 （神経外傷 Vol.29, Supplement）
2008 年	頭部外傷データバンク検討委員会報告【プロジェクト 2004】 （神経外傷 Vol.31，特別号） 第 3 次研究プロトコール（データシート）検討・作成
2009 年	プロジェクト 2009 開始（22 施設）
2010 年	頭部外傷データバンク業績目録作成 第 2 次 One Week Study プロトコール（データシート）検討・作成

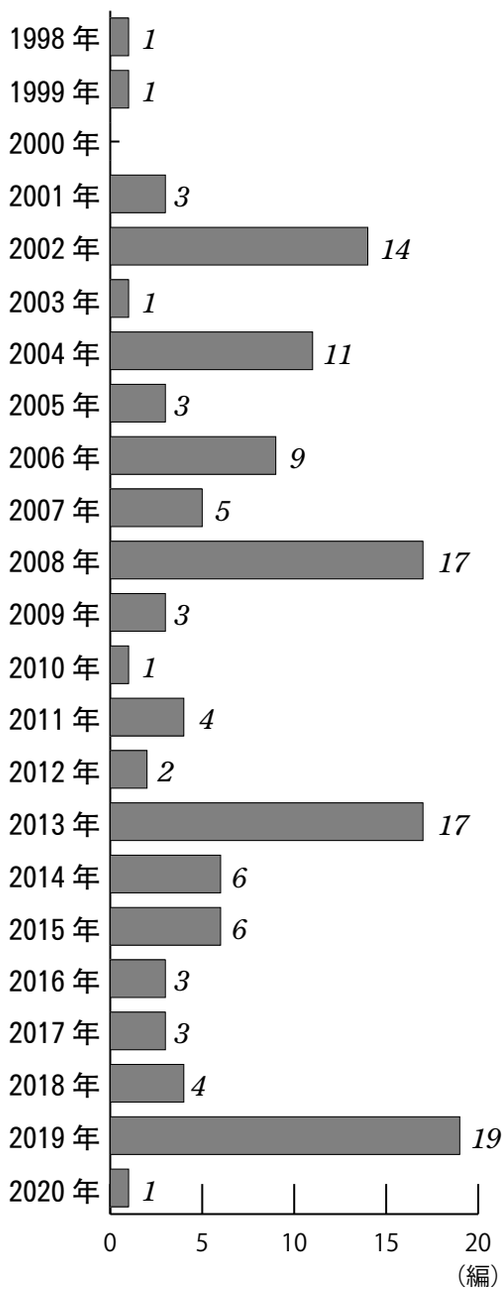
年　月	項　目
2011年	プロジェクト2009終了，1,091例集計
2012年6月	One Week Study（脳神経外科学会専門医訓練施設および一部の救命救急センター297施設），682例集計
2013年	頭部外傷データバンク検討委員会報告書（神経外傷 Vol.36, No.1） 重症頭部外傷治療・管理のガイドライン第3版作成
2015年	プロジェクト2015開始（32施設）
2016年	One Week Study，193例集計
2017年	プロジェクト2015終了，1,345例集計
2019年	頭部外傷データバンク検討委員会報告書（神経外傷 Vol.42, No.2） 頭部外傷治療・管理のガイドライン第4版作成
2022年	頭部外傷データバンク業績目録（2011年～2020年）作成
2023年	プロジェクト2023開始予定

学会発表・論文発表の推移

学会発表
（計 348 題）



論文発表
（計 134 編）



日本頭部外傷
データバンク
業績目録

学会発表

（2011年～2020年）

※ 2010 年以前の学会発表は『神経外傷／33 巻／別冊』に掲載
https://doi.org/10.32187/neurotraumatology.33.3_1

【2011 年】

1. 藤川 厚，ほか
小児脳神経救急の現状と展望　小児頭部外傷の現状と展望
頭部外傷データバンク One Week Study とプロジェクト 2004 の比較
第 16 回日本脳神経外科救急学会（名古屋），2011

2. 藤川 厚，ほか
小児頭部外傷における JNTDB プロジェクト 2004 の位置づけ
One Week Study との比較
第 34 回日本脳神経外傷学会（京都），2011

3. 小野 純一，ほか
プロジェクト 2004 はわが国の頭部外傷の実情を反映しているか
プロジェクト 2004 と One Week Study の比較から
第 34 回日本脳神経外傷学会（京都），2011

4. 奥野 憲司，ほか
頭部外傷データバンク Project 2009
第 1 期データにおける飲酒の有無の影響
第 34 回日本脳神経外傷学会（京都），2011

5. 卯津羅 雅彦，ほか
GCS 3 点の重症頭部外傷の現状　頭部外傷データバンクから
第 34 回日本脳神経外傷学会（京都），2011

6. 中村 弘，ほか

日本頭部外傷データバンク検討委員会
重症頭部外傷の患者特性・治療法の施設による違い
頭部外傷データバンクプロジェクト 1998・2004 登録症例による検討

第 39 回日本救急医学会学術集会（東京），2011

【2012 年】

7. 末廣 栄一，ほか

重症頭部外傷に対する脳温管理の実態
頭部外傷データバンクプロジェクト 2009 における検討（中間報告）

第 35 回日本脳神経外傷学会（東京），2012

8. 藤川 厚，ほか

頭部外傷治療の変遷
頭部外傷データバンク・プロジェクト 2009 中間報告

第 35 回日本脳神経外傷学会（東京），2012

9. 前田 剛，ほか

脳挫傷に対する治療の現状
頭部外傷データバンクプロジェクト 2009 中間報告

第 35 回日本脳神経外傷学会（東京），2012

10. 小野 純一，ほか

重症頭部外傷における病態・転帰の経年的変化
頭部外傷データバンクの分析から　Preliminary report

第 35 回日本脳神経外傷学会（東京），2012

11. 榊原 毅彦，ほか

自転車同士や自損事故における重症頭部外傷の傾向
頭部外傷データバンク 2004 のデータをもとに

第 35 回日本脳神経外傷学会（東京），2012

12. 宮田 昭宏，ほか

JNTDB からみる急性硬膜下血腫の動向
JNTDB project 1998／2004 から p2009 へ

第 35 回日本脳神経外傷学会（東京），2012

13. 刈部 博，ほか

重症頭部外傷に対する治療戦略としての穿頭術の現状
特にその有用性と限界について
日本頭部外傷データバンクプロジェクト 2009 の分析

第 35 回日本脳神経外傷学会（東京），2012

14. 奥野 憲司，ほか

頭部外傷データバンクプロジェクト 2009 中間報告より、
飲酒頭部外傷患者の検討

第 35 回日本脳神経外傷学会（東京），2012

15. 末廣 栄一，ほか

重症頭部外傷における脳低温療法
重症頭部外傷治療における脳温管理の現況
頭部外傷データバンクプロジェクト 2009（中間報告）より

第 15 回日本脳低温療法学会（横浜），2012

16. 中村 弘，ほか

施設は重症頭部外傷の転帰に関係する因子か？
頭部外傷データバンクプロジェクト 1998・2004 登録症例による検討

第 40 回日本救急医学会学術集会（京都），2012

17. 末廣 栄一，ほか

重症頭部外傷治療における積極的脳温管理の現状と効果：
頭部外傷データバンクプロジェクト 2009 における検討

第 71 回日本脳神経外科学会総会（大阪），2012

【2013年】

18. 大貫 隆広，ほか

頭部外傷に潜む他部位外傷の危険性
JNTDB プロジェクト 2009 より

第 18 回日本脳神経外科救急学会（弘前），2013

19. 奥野 憲司，ほか

本邦における頭部外傷全例調査
頭部外傷データバンク One Week Study 2012 の報告

第 18 回日本脳神経外科救急学会（弘前），2013

20. 河北 賢哉，ほか

重症頭部外傷における体温管理の現状
頭部外傷データバンク【プロジェクト 2009】より

第 18 回日本脳神経外科救急学会（弘前），2013

21. 小野 純一，ほか

重症頭部外傷における病態・転帰の最近の動向
頭部外傷データバンクの分析から

第 36 回日本脳神経外傷学会（名古屋），2013

22. 小川 武希，ほか

JNTDB プロジェクト 2009 の概要

第 36 回日本脳神経外傷学会（名古屋），2013

23. 小川 武希，ほか

頭部外傷に伴う“高次脳機能”障害について
―頭部外傷ガイドライン 3 版から―

第 36 回日本脳神経外傷学会（名古屋），2013

24. 末廣 栄一，ほか

重症頭部外傷を病型別にみた脳温管理の現状と効果：
頭部外傷データバンクプロジェクト 2009 より

第 36 回日本脳神経外傷学会（名古屋），2013

25. 河北 賢哉，ほか

神経集中治療　重症頭部外傷における体温管理の現状
頭部外傷データバンク【プロジェクト 2009】より

第 40 回日本集中治療医学会学術集会（松本），2013

26. 大貫 隆広，ほか

頭部外傷を合併した多発外傷の治療戦略
頭部外傷データバンク［プロジェクト 2009］からみた多発外傷治療の現状

第 27 回日本外傷学会総会・学術集会（久留米），2013

27. 大貫 隆広，ほか

頭部外傷データバンク［プロジェクト 2009］のデータを用いた
頭部外傷分類の検討

第 27 回日本外傷学会総会・学術集会（久留米），2013

28. 小川 武希

外傷データバンクが交通事故の被害軽減に果たす役割
頭部外傷データバンク「プロジェクト 2009」の概要について

第 49 回日本交通科学学会総会・学術講演会（東京），2013

29. 末廣 栄一，ほか

頭部外傷における病態別にみた脳低温療法の脳保護効果

第 16 回日本脳低温療法学会（名古屋），2013

30. 中村 弘，ほか

GCS 情報を使用しない頭部外傷予後予測モデルの作成

第 41 回日本救急医学会総会・学術集会（東京），2013

31. 大瀧 佑平，ほか

頭部外傷データバンク「プロジェクト 2009」の概要について

第 41 回日本救急医学会総会・学術集会（東京），2013

32. 横堀 將司，ほか

高齢者重症頭部外傷に対する積極的治療 15 年の総括
日本頭部外傷データバンク（JNTDB）1998-2009 における検討

第 41 回日本救急医学会総会・学術集会（東京），2013

33. 奥野 憲司，ほか

頭部外傷データバンク One Week Study 2012 の概要　最終報告

第 41 回日本救急医学会総会・学術集会（東京），2013

34. 卯津羅 雅彦，ほか

びまん性脳損傷転帰不良例の検討
頭部外傷データバンクの P2004 と P2009 の比較から

第 41 回日本救急医学会総会・学術集会（東京），2013

35. 小川 武希，ほか

頭部外傷データバンク「プロジェクト 2009」の概要

第 72 回日本脳神経外科学会総会（横浜），2013

36. Yokobori S, et al

GERIATRIC TBI IN JAPAN-LESSONS FROM THE COUNTRY WITH HIGHEST LONGEVITY: REPORT FROM THE JAPAN NEUROTRAUMA DATA BANK (JNTDB) PROJECT 1999-2009

The 31st Annual National Neurotrauma Symposium（Nashville, USA），2013

37. Suehiro E, et al

Current practice and effects of brain temperature control in patients with severe traumatic brain injury according to pathophysiology: Analysis of Japan Neurotrauma Data Bank Project 2009

The 31st Annual National Neurotrauma Symposium（Nashville, USA），2013

【2014 年】

38. 小野 純一，ほか

One Week Study からみたわが国における高齢者頭部外傷の最近の動向

第 19 回日本脳神経外科救急学会（富山），2014

39. 宮田 昭宏，ほか

重症頭部外傷に対する頭蓋内圧コントロール
JNTDB にみる減圧開頭術の現状

第 19 回日本脳神経外科救急学会（富山），2014

40. 藤川 厚，ほか

頭部外傷データバンク One Week Study における
高齢者頭部外傷の経年的変化

第 37 回日本脳神経外傷学会（東京），2014

41. 榊原 毅彦，ほか

高齢者の脳神経外傷
高齢者の自転車，二輪車事故における重症頭部外傷の傾向
頭部外傷データバンク Project 2009 をもとに

第 37 回日本脳神経外傷学会（東京），2014

42. 熊川 貴大，ほか

頭部外傷データバンクプロジェクト 2009 における
talk and deteriorate 192 症例の検討

第 37 回日本脳神経外傷学会（東京），2014

43. 宮田 昭宏，ほか

他部位外傷を合併した重症頭部外傷の臨床像
JNTDB project 2009 による評価

第 37 回日本脳神経外傷学会（東京），2014

44. 河北 賢哉，ほか

頭部外傷に対する ICP モニタリングの現状
JNTDB【プロジェクト 2009】と当院の比較

第 37 回日本脳神経外傷学会（東京），2014

45. 奥野 憲司，ほか

頭部外傷データバンク全国頭部外傷実態調査 (OWS2012) における
地域差の検討

第 37 回日本脳神経外傷学会（東京），2014

46. 卯津羅 雅彦，ほか

びまん性脳損傷における現状
頭部外傷データバンク P2004 と P2009 の比較から

第 28 回日本外傷学会総会・学術集会（東京），2014

47. 末廣 栄一，ほか

日本頭部外傷データバンクの現状と
日本外傷データバンクとのコラボの可能性

第 28 回日本外傷学会総会・学術集会（東京），2014

48. 田中 俊生，ほか

交通事故で受傷した重症頭部外傷患者における
来院時の生理学的パラメーターとその後の転帰についての検討
頭部外傷データバンク【プロジェクト 2009】より

第 50 回日本交通科学学会総会・学術講演会（東京），2014

49. 榊原 毅彦，ほか

高齢者の自転車，二輪車事故における重症頭部外傷の傾向

第 42 回日本救急医学会総会・学術集会（福岡），2014

50. 卯津羅 雅彦，ほか

自転車と歩行者での高齢者重症頭部外傷の比較
頭部外傷データバンク P2009 から

第 42 回日本救急医学会総会・学術集会（福岡），2014

51. 宮田 圭，ほか

重症中等症頭部外傷における積極的体温管理
JNTDB2009 における propensity score 分析

第 42 回日本救急医学会総会・学術集会（福岡），2014

52. Suehiro E, et al

Clinical practices for severe traumatic brain injury
from the Japan Neurotrauma Data Bank

Asian Australasian Society of Neurological Surgeons (AASNS)
Neuro TRAUMA Workshop（Yangon, Myanmar），2014

53. Suehiro E, et al

Future directions of hypothermia therapy for traumatic brain injury
from clinical studies in Japan

The 11th Symposium of The International Neurotrauma Society
（Budapest, Hungary），2014

【2015年】

54. 熊川 貴大，ほか

Talk and deteriorate の検討
日本脳神経外傷学会頭部外傷データバンクプロジェクト 2009 の結果から

第 20 回日本脳神経外科救急学会（東京），2015

55. 大貫 隆広，ほか

日本外傷データバンクと日本頭部外傷データバンクの比較

第 38 回日本脳神経外傷学会（徳島），2015

56. 小野 純一，ほか

高齢化社会と頭頸部外傷　高齢者頭部外傷の最近の動向
頭部外傷データバンク One Week Study と Project Study の分析から

第 38 回日本脳神経外傷学会（徳島），2015

57. 近藤 達弥，ほか

当院における次期頭部外傷データバンク登録が期待される症例群について
日本外傷データバンクとの比較

第 38 回日本脳神経外傷学会（徳島），2015

58. 宮田 昭宏，ほか

重症頭部外傷の病態，管理
重症頭部外傷治療における頭蓋内圧測定の現状と課題
JNTDB project 2009 による評価

第 38 回日本脳神経外傷学会（徳島），2015

59. 下田 健太郎，ほか

高齢化社会と頭頸部外傷
高齢者頭部外傷の転帰と外科治療
日本頭部外傷データバンクプロジェクトにおける 888 例の検討

第 38 回日本脳神経外傷学会（徳島），2015

60. 奥野 憲司，ほか

当院における次期頭部外傷データバンク登録が期待される症例の検討

第 38 回日本脳神経外傷学会（徳島），2015

【2016年】

61. 小野 純一，ほか

頭部外傷データバンクからみた高齢者頭部外傷の経年的変化
非高齢者との比較

第21回日本脳神経外科救急学会（東京），2016

62. 宮田 昭宏，ほか

高齢者重症頭部外傷における転倒症例の検討
JNTDB project 2009における小開頭術の有効性

第21回日本脳神経外科救急学会（東京），2016

63. 熊川 貴大，ほか

「小児の脳神経外科救急の現状と課題」
小児頭部外傷における talk & deteriorate
日本脳神経学会頭部外傷データバンクプロジェクトにおける検討

第21回日本脳神経外科救急学会（東京），2016

64. 末廣 栄一，ほか

神経外傷と Biomedical Informatics
日本における頭部外傷疫学研究の未来
日本頭部外傷データバンクの今後

第39回日本脳神経外傷学会（仙台），2016

65. 小野 純一，ほか

神頭部外傷データバンクからみた高齢者頭部外傷の経年的変化
高齢者と超高齢者の比較

第39回日本脳神経外傷学会（仙台），2016

66. 熊川 貴大，ほか

頭部外傷後の社会復帰
日本頭部外傷データバンクプロジェクト2009における検討

第39回日本脳神経外傷学会（仙台），2016

67. 横堀 將司，ほか

脳神経外傷初期診療の標準化　JATEC／JPTEC 再考
治療標準化は Preventable Trauma Death を減らせたのか？
日本頭部外傷データバンク登録症例からの検討

第 39 回日本脳神経外傷学会（仙台），2016

68. 卯津羅 雅彦，ほか

脳神経外傷初期診療の標準化　JATEC／JPTEC 再考
頭部外傷データバンクからみた外傷初期診療導入の影響

第 39 回日本脳神経外傷学会（仙台），2016

69. 横堀 將司，ほか

JATEC の普及と今後の課題
外傷診療標準化は多発外傷合併頭部外傷の転帰を改善したか?
日本頭部外傷データバンク登録症例による検討

第 19 回日本臨床救急医学会総会・学術集会（福島），2016

70. 前田 剛，ほか

重症頭部外傷における集中治療の現状
日本脳神経外傷学会頭部外傷データバンクから

第 20 回日本神経麻酔集中治療学会（札幌），2016

71. 末廣 栄一，ほか

日本頭部外傷データバンクにおける頭蓋内圧モニタリングの使用状況

第 22 回日本脳神経モニタリング学会（東京），2016

72. 末廣 栄一，ほか

頭部外傷診療における頭蓋内圧モニタリングの役割
日本頭部外傷データバンクより

第 44 回日本救急医学会総会・学術集会（東京），2016

73. 末廣 栄一，ほか

日本頭部外傷データバンク ～これまでの業績と今後の課題～

第 75 回日本脳神経外科学会総会（福岡），2016

74. Suehiro E, et al

Current use of intracranial pressure monitoring in Japan

12th International Neurotrauma Symposium
（Cape Town, South Africa），2016

75. Suehiro E, et al

Hypothermia therapy for traumatic brain injury

International Conference on Recent Advances in Neurotraumatology
(ICRAN) 2016 （Bogota, Colombia），2016

76. Suehiro E, et al

The role of intracranial pressure monitoring in unit
of the medical treatment for severe traumatic brain injury patients
from the Japan Neurotrauma Data Bank

The 4th International Congress of Asia-Oceania Neurotrauma Society
（AONTS 2016）（Incheon, Korea），2016

【2017年】

77. 小野 純一，ほか

高齢者急性硬膜下血腫に対する治療と転帰の最近の動向
頭部外傷データバンクの分析から

第22回日本脳神経外科救急学会（高松），2017

78. 宮田 昭宏，ほか

減圧術に先行する穿頭術の効果に関する検討

第22回日本脳神経外科救急学会（高松），2017

79. 小林 真人，ほか

頭部外傷データバンクにおける急性硬膜外血腫の転帰不良因子について

第40回日本脳神経外傷学会（東京），2017

80. 小野 純一，ほか

頭部外傷データバンク事業　20年の総括

第40回日本脳神経外傷学会（東京），2017

81. 古川 雄一，ほか
頭部外傷データバンクにおける月間比較
第 40 回日本脳神経外傷学会（東京），2017

82. 宮田 昭宏，ほか
後頭蓋窩損傷を合併した重症頭部外傷の臨床像と転帰
JNTDB project 2009 による評価
第 40 回日本脳神経外傷学会（東京），2017

83. 末廣 栄一，ほか
JNTDB における脳低温療法を施行した頭部外傷（evacuated mass lesion）の転帰決定因子の検討
第 20 回日本脳低温療法・体温管理学会（熊本），2017

84. 末廣 栄一，ほか
日本頭部外傷データバンク One Week Study 2016 からみた
頭部外傷症例の現状
第 45 回日本救急医学会総会・学術集会（大阪），2017

【2018年】

85. 小野 純一，ほか
高齢者急性硬膜下血腫における手術治療の実態と転帰
頭部外傷データバンクの分析から
第 23 回日本脳神経外科救急学会（奈良），2018

86. 田中 知恵，ほか
頭部外傷データバンクを用いた来院時軽症であった重症化頭部外傷症例の周術期頭蓋内圧管理と予後の解析
第 41 回日本脳神経外傷学会（東京），2018

87. 末廣 栄一，ほか
抗血栓薬内服中の頭部外傷患者の real world と management
第 41 回日本脳神経外傷学会（東京），2018

88. 塩見 直人，ほか
手術を施行した軽症・中等症頭部外傷患者の転帰要因
JNTDB2009 登録症例の検討
第 41 回日本脳神経外傷学会（東京），2018

89. 末廣 栄一，ほか
抗血栓薬を服用している高齢者頭部外傷への対応
第 38 回日本脳神経外科コングレス総会（大阪），2018

90. 末廣 栄一，ほか
抗血栓薬を内服している高齢者頭部外傷の日本におけるリアルワールド
第 32 回日本外傷学会総会・学術集会（京都），2018

91. 末廣 栄一，ほか
抗血栓剤服用者の頭部外傷：日本頭部外傷データバンクから
第 27 回日本脳ドック学会総会（盛岡），2018

92. 大貫 隆広，ほか
救急医療と End-of-Life Care
初期治療方針選択に関わる要因の検討　JNTDB p2015 より
第 46 回日本救急医学会総会・学術集会（横浜），2018

93. 畝本 恭子，ほか
重症頭部外傷後の病院前増悪の検討
頭部外傷データバンク 2015 より
第 46 回日本救急医学会総会・学術集会（横浜），2018

94. 榊原 毅彦，ほか
高齢者自転車事故による重症頭部外傷の傾向
頭部外傷データバンク 2015 を基に
第 46 回日本救急医学会総会・学術集会（横浜），2018

95. 横堀 將司，ほか
重症外傷診療のエビデンス構築を目指して
頭部外傷関連多発外傷の治療成績と今後の課題
日本頭部外傷データバンク登録症例からの検討
第 46 回日本救急医学会総会・学術集会（横浜），2018

96. 末廣 栄一，ほか
日本頭部外傷データバンク　プロジェクト 2015 の概略
第 77 回日本脳神経外科学会総会（仙台），2018

97. 河北 賢哉，ほか
頭部外傷に対する体温管理療法の現状とその有用性の検討
―P2015 データより―
第 77 回日本脳神経外科学会総会（仙台），2018

98. 前田 剛，ほか
高齢者重症頭部外傷に対する外科的治療：
頭部外傷データバンクにおける検討
第 77 回日本脳神経外科学会総会（仙台），2018

99. 早川 隆宣，ほか
重症頭部外傷における脳圧モニタリング：
頭部外傷データバンクプロジェクト 2015 より
第 77 回日本脳神経外科学会総会（仙台），2018

100. 小畑 仁司，ほか
わが国における低体温療法／体温管理療法の現況
日本頭部外傷データバンク 2015 の検討
第 77 回日本脳神経外科学会総会（仙台），2018

101. 刈部 博，ほか
重症頭部外傷に対する治療戦略としての穿頭術の現状
日本頭部外傷データバンクプロジェクト 2009 と 2015 の比較分析から
第 77 回日本脳神経外科学会総会（仙台），2018

102. 大塩 恒太郎，ほか
積極的治療，非積極的治療選択の分岐点
JNTDB 2015 のデータから見える全体像
第 77 回日本脳神経外科学会総会（仙台），2018

103. 横堀 將司，ほか

頭部外傷における Preventable Trauma Death は減少したか
日本神経外傷データバンク登録症例からの検討

第 77 回日本脳神経外科学会総会（仙台），2018

104. 大貫 隆広，ほか

多部位外傷と頭部単純外傷の比較検討 JNTDB p2015 より

第 77 回日本脳神経外科学会総会（仙台），2018

105. Suehiro E, et al

Current status of neurocritical care in patients with traumatic brain injury based on data from the Japan Neurotrauma Data Bank

NCS 16th Annual Meeting（Boca Raton, USA），2018

106. Suehiro E, et al

Management of elderly severe traumatic brain injury patients with anti-thrombotic drugs in Japan

NeuroTrauma 2018（Toronto, Canada），2018

【2019 年】

107. 本島 卓幸，ほか

頭部外傷の機械学習による予後因子の検討
頭部外傷データバンクプロジェクト 2015 より

第 42 回日本脳神経外傷学会（淡路島），2019

108. 本多 ゆみえ，ほか

小児の重症頭部外傷の検討
転帰改善にむけて（頭部外傷データバンクプロジェクト 2015）

第 42 回日本脳神経外傷学会（淡路島），2019

109. 大貫 隆広，ほか

Japan Neuro Trauma Data Bank（JNTDB）project 2015 における
Multiple trauma の検討

第 42 回日本脳神経外傷学会（淡路島），2019

110. 早川 隆宣，ほか

頭部外傷データバンクプロジェクト 2015 における
脳圧モニタリング例の分析

第 42 回日本脳神経外傷学会（淡路島），2019

111. 前田 剛，ほか

Talk & Deteriorate　日本頭部外傷データバンク P2015 からの検討

第 42 回日本脳神経外傷学会（淡路島），2019

112. 畝本 恭子，ほか

重症頭部外傷の搬送中急変 Talk & Deteriorate と事例の検討
日本頭部外傷データバンクプロジェクト 2015 より

第 42 回日本脳神経外傷学会（淡路島），2019

113. 榊原 毅彦，ほか

抗血栓薬と脳神経外傷
自転車事故による高齢者重症頭部外傷の傾向と転帰
JNTDB 2015 のデータからの検討

第 42 回日本脳神経外傷学会（淡路島），2019

114. 刈部 博，ほか

重症頭部外傷に対する治療戦略としての穿頭術の現状
日本頭部外傷データバンク P2009 と P2015 の比較分析

第 42 回日本脳神経外傷学会（淡路島），2019

115. 海老原 幸一，ほか

自動車事故と重症頭部外傷
対自動車事故における特徴 JNTDB P2015 より

第 42 回日本脳神経外傷学会（淡路島），2019

116. 加藤 侑哉，ほか

重症頭部外傷における年齢構成の推移
日本頭部外傷データバンクプロジェクト 2009 と 2015 の比較

第 42 回日本脳神経外傷学会（淡路島），2019

117. 横堀 將司，ほか

我が国における高齢者重症頭部外傷の変遷
頭部外傷データバンクプロジェクト 1998-2015 からの検討

第 42 回日本脳神経外傷学会（淡路島），2019

118. 塩見 直人，ほか

急性期に重症化した頭部外傷例の検討
頭部外傷データバンク 2015 の分析

第 42 回日本脳神経外傷学会（淡路島），2019

119. 宮田 圭，ほか

重症頭部外傷に対する TXA 大量投与
JNTDB 2015 からの検討

第 42 回日本脳神経外傷学会（淡路島），2019

120. 戸村 哲，ほか

頭部外傷データバンク【プロジェクト 2015】を用いた
機械学習による人工知能研究ことはじめ

第 42 回日本脳神経外傷学会（淡路島），2019

121. 大塩 恒太郎，ほか

積極治療と非積極治療例の比較検討　JNTDB 2015

第 42 回日本脳神経外傷学会（淡路島），2019

122. 末廣 栄一，ほか

抗血栓薬を服用している頭部外傷患者への中和療法の実状

第 42 回日本脳神経外傷学会（淡路島），2019

123. 河北 賢哉，ほか

重症頭部外傷に対する積極的体温管理の有用性の検討
―P2009 と P2015 を対象として―

第 42 回日本脳神経外傷学会（淡路島），2019

124. 大貫 隆広，ほか

重症頭部外傷治療における搬入時 D-dimer 値の意義

第 46 回日本集中治療医学会学術集会（京都），2019

125. 本多 ゆみえ，ほか

頭部外傷データバンクプロジェクト 2015 の分析による
小児の重症頭部外傷の検討

第 33 回日本外傷学会総会・学術集会（八戸），2019

126. 小畑 仁司

わが国における重症頭部外傷に対する体温管理の現状，
JNTDB Project 2015 の結果を中心に

第 22 回日本脳低温療法・体温管理学会（東京），2019

127. 前田 剛，ほか

日本神経外傷データバンクに基づいた重症外傷性脳損傷の管理
（Managements of severe traumatic brain injury
based on the Japan Neurotrauma Data Bank）

第 23 回日本神経麻酔集中治療学会（奈良），2019

128. 笹川 麻由，ほか

重症頭部外傷管理におけるけいれんとその治療
頭部外傷データバンクプロジェクト 2015 からの検討

第 53 回日本てんかん学会学術集会（神戸），2019

129. 前田 剛，ほか

頭部外傷の予後予測モデルの評価
日本頭部外傷データバンク（JNTDB）データに基づく
TRISS，CRASH，IMPACT の検証

第 57 回日本医療・病院管理学会学術総会（新潟），2019

130. 本多 ゆみえ，ほか

小児の重症頭部外傷の検討
その転帰を改善するには？（頭部外傷データバンクプロジェクト 2015）

第 47 回日本救急医学会総会・学術集会（東京），2019

131. 横堀 將司，ほか

不断前進，外傷診療
重症頭部外傷診療の現状と今後の課題
日本頭部外傷データバンク症例 4,527 例からの解析

第 47 回日本救急医学会総会・学術集会（東京），2019

132. Suehiro E, et al

A study on the risk of late exacerbation and the effects possibility of reversal for geriatric patients of traumatic brain injury treated with antithrombotic drugs

2019 CNS Annual Meeting（San Francisco, USA），2019

【2020年】

133. 宮田 昭宏，ほか

日本頭部外傷データバンクに見る重症頭部外傷の動向
―p2004／p2009／p2015 連続参加施設における定点観測―

第 43 回日本脳神経外傷学会（箱根），2020

134. 中山 晴雄，ほか

本邦における重症頭部外傷の性別による特徴
JNTDB 2015 からの検討

第 43 回日本脳神経外傷学会（箱根），2020

135. 前田 剛，ほか

高齢者重症頭部外傷の現状と対策
頭部外傷データバンク P2015 における検討

第 43 回日本脳神経外傷学会（箱根），2020

136. 大貫 隆広，ほか

Japan NeuroTrauma Data Bank（JNTDB）project 2015 における
凝固線溶系の検討

第 43 回日本脳神経外傷学会（箱根），2020

137. 末廣 栄一，ほか

回復期における転帰改善に対する予測因子の検討
―日本頭部外傷データバンク P2015 から―

第 43 回日本脳神経外傷学会（箱根），2020

138. 末廣 栄一，ほか

頭部外傷では長期予後を考慮した管理が重要である！
―日本頭部外傷データバンク P2015 から―

第 48 回日本救急医学会総会・学術集会（岐阜），2020

日本頭部外傷
データバンク
業績目録

論　　文

（2011年～2020年）

※ 2010 年以前の論文は『神経外傷／33 巻／別冊』に掲載
https://doi.org/10.32187/neurotraumatology.33.3_1

【2011年】

1. 重森 稔，ほか
日本頭部外傷データバンクにおける One Week Study の総括
神経外傷 34: 1-6, 2011

2. 卯津羅 雅彦，ほか
頭部外傷データバンク
GCS3 点の重症頭部外傷の現状
頭部外傷データバンクから
神経外傷 34: 7-10, 2011

3. 小野 純一，ほか
頭部外傷データバンク
プロジェクト 2004 はわが国の頭部外傷重症例の実情を反映しているか?
プロジェクト 2004 と One Week Study との比較から
神経外傷 34: 11-14, 2011

4. 藤川 厚，ほか
頭部外傷データバンク・プロジェクト 2004 は
わが国における小児頭部外傷の実態を反映しているか?
プロジェクト 2004 と One Week Study の比較
神経外傷 34: 15-18, 2011

【2012年】

5. 奥野 憲司，ほか
【神経集中治療の現状と展望】頭部外傷
ICU と CCU 36: 1087-1092, 2012

6. 橋本 圭

【精神科臨床における「頭部外傷後遺症」の評価とマネジメント】
重症頭部外傷後に生じる認知機能障害

精神科治療学 27: 293-298, 2012

【2013年】

7. 小川 武希，ほか

総論　頭部外傷データバンク【プロジェクト 2009】の概略

神経外傷 36: 1-9, 2013

8. 亀山 元信，ほか

【頭部外傷データバンク　プロジェクト 2009】
重症頭部外傷の年齢構成はどのように変化してきたのか？
頭部外傷データバンク【プロジェクト 1998，2004，2009】の推移

神経外傷 36: 10-16, 2013

9. 小野 純一，ほか

【頭部外傷データバンク　プロジェクト 2009】
重症頭部外傷における病態・転帰の最近の動向
頭部外傷データバンクにおける交通事故受傷例の検討

神経外傷 36: 17-29, 2013

10. 刈部 博，ほか

【頭部外傷データバンク　プロジェクト 2009】
重症頭部外傷に対する治療戦略としての穿頭術の現状
特に急性硬膜下血腫症例における有用性と限界について
頭部外傷データバンク【プロジェクト 2009】の分析

神経外傷 36: 30-36, 2013

11. 藤川 厚，ほか

【頭部外傷データバンク　プロジェクト 2009】
頭部外傷データバンクにおける重症頭部外傷治療の変遷
プロジェクト 1998, 2004, 2009 の比較

神経外傷 36: 37-44, 2013

12. 河北 賢哉，ほか

【頭部外傷データバンク　プロジェクト 2009】
重症頭部外傷における体温管理の現状
頭部外傷データバンク【プロジェクト 2009】より

神経外傷 36: 45-51, 2013

13. 宮田 圭，ほか

【頭部外傷データバンク　プロジェクト 2009】
頭部外傷データバンク【プロジェクト 2009】における
重症頭部外傷患者の集中治療
積極的体温管理下における鎮静鎮痛管理の検討

神経外傷 36: 52-59, 2013

14. 末廣 栄一，ほか

【頭部外傷データバンク　プロジェクト 2009】
重症頭部外傷を病態別にみた脳温管理の現状
頭部外傷データバンク【プロジェクト 2009】より

神経外傷 36: 60-66, 2013

15. 塩見 直人，ほか

【頭部外傷データバンク　プロジェクト 2009】
受傷後急性期に重症化した頭部外傷例の検討
頭部外傷データバンク【プロジェクト 2009】からの報告

神経外傷 36: 67-75, 2013

16. 横堀 將司，ほか

【頭部外傷データバンク　プロジェクト 2009】
高齢者重症頭部外傷に対する積極的治療と患者転帰の変遷
頭部外傷データバンク【プロジェクト 1998, 2004, 2009】における検討

神経外傷 36: 76-85, 2013

17. 本多 ゆみえ，ほか

【頭部外傷データバンク　プロジェクト 2009】
小児の重症頭部外傷の検討
頭部外傷データバンク【プロジクト 2009】の分析から

神経外傷 36: 86-94, 2013

18. 小野 元，ほか

【頭部外傷データバンク　プロジェクト 2009】
頭部外傷データバンク【プロジェクト 2009】における
自転車事故に関連したデータの検討

神経外傷 36: 95-104, 2013

19. 江崎 孝徳，ほか

【頭部外傷データバンク　プロジェクト 2009】
転帰からみた重症頭部外傷の現状および死亡要因と転帰不良要因の解析
頭部外傷データバンク【プロジェクト 2009】から

神経外傷 36: 105-111, 2013

20. 秋山 理，ほか

【頭部外傷データバンク　プロジェクト 2009】
GCS 3 点の重症頭部外傷への対応　プロジェクト 2004 との比較

神経外傷 36: 112-116, 2013

21. 小野 純一，ほか

わが国における頭部外傷の最近の動向
One Week Study 2005 と 2012 の比較検討から

神経外傷 36: 129-135, 2013

22. 前田 剛，ほか

重症頭部外傷ガイドライン 2013 アップデート

脳神経外科ジャーナル 22: 831-836, 2013

23. 小野 純一，ほか

頭部外傷データバンク Project 研究から見た
重症頭部外傷の最近の動向

日本医事新報 (4656): 23-28, 2013

【2014年】

24. 鈴木 倫保，ほか

日本頭部外傷データバンク　過去・現在…そして未来

脳神経外科ジャーナル 23: 934-941, 2014

25. 末廣 栄一，ほか

疫学　日本頭部外傷データバンクから読み解く
わが国の頭部外傷診療の現状

救急医学 38: 746-750, 2014

26. 横堀 將司，ほか

重症頭部外傷における脳室内出血の臨床的意義
積極的治療抵抗因子の病態は何か

Neurosurgical Emergency 19: 204-209, 2014

27. Shimoda K, et al

Outcome and surgical management for geriatric traumatic brain injury : analysis of 888 cases registered in the Japan Neurotrauma Data Bank

World Neurosurg 82: 1300-1306, 2014

28. Suehiro E, et al

Recent advances and future directions of hypothermia therapy for traumatic brain injury

Neurol Med Chir (Tokyo) 54: 863-869, 2014

29. Suehiro E, et al

Survey of brain temperature management in patients with traumatic brain injury in the Japan neurotrauma data bank

J Neurotrauma 31: 315-320, 2014

【2015年】

30. 小野 純一，ほか

高齢者頭部外傷の最近の動向
頭部外傷データバンク One Week Study および Project Study の分析から

神経外傷 38: 1-8, 2015

31. 亀山 元信，ほか

頭部外傷データバンク

Neurological Surgery 43: 879-892, 2015

32. 前田 剛，ほか
重症頭部外傷治療・管理のガイドライン 2013
Annual Review 神経 2015: 169-176, 2015

33. 鈴木 倫保，ほか
日本の頭部外傷の近年の動向　頭部外傷データバンクから
Annual Review 神経. 2015: 177-182, 2015

34. 田中 俊生，ほか
交通事故で受傷した重症頭部外傷患者における
来院時の生理学的パラメーターとその後の転帰についての検討
頭部外傷データバンク【プロジェクト 2009】より
日本交通科学学会誌 14: 26-33, 2015

35. Suehiro E, et al
Diverse effects of hypothermia therapy in patients with severe traumatic brain injury based on the computed tomography classification of the traumatic coma data bank
J Neurotrauma 32: 353-358, 2015

【2016年】

36. 橘 とも子
障害保健福祉政策の推進に向けた
外傷予後の協働データベース・プロジェクトに関する意見調査
保健医療科学 65: 60-66, 2016

37. Miyata K, et al
Therapeutic temperature modulation in severe or moderate traumatic brain injury : a propensity score analysis of data from the Nationwide Japan Neurotrauma Data Bank
J Neurosurg 124: 527-537, 2016

38. Yokobori S, et al

Outcome and Refractory Factor of Intensive Treatment for Geriatric Traumatic Brain Injury : Analysis of 1165 Cases Registered in the Japan Neurotrauma Data Bank

World Neurosurg 86: 127-133, 2016

【2017年】

39. 小野純一，ほか

頭部外傷データバンクからみた高齢者頭部外傷の経年変化
高齢群と超高齢群の比較

神経外傷 40: 1-8, 2017

40. 末廣 栄一，ほか

軽症・中等症頭部外傷への対応

脳神経外科ジャーナル 26: 178-184, 2017

41. Suehiro E, et al

Directions for use of intracranial pressure monitoring in treatment of severe traumatic brain injury using data from the Japan Neurotrauma Data Bank

J Neurotrauma 34: 2230-2234, 2017

【2018年】

42. 横堀 將司，ほか

我が国における高齢者重症頭部外傷の変遷
頭部外傷データバンクプロジェクト 1998〜2015 からの検討

神経外傷 41: 71-80, 2018

43. 奥野 憲司，ほか

本邦における脳神経外傷治療の現状と未来

脳神経外科ジャーナル 27: 17-24, 2018

44. 末廣 栄一，ほか

日常診療に役立つ“頭部外傷”の minimum essence
高齢者頭部外傷治療におけるピットフォール

Neurological Surgery 46: 1127-1135, 2018

45. Ichikawa R, et al

Prediction of Poor Prognosis After Severe Head Injury
in Children Using Logistic Regression

Pediatr Emerg Care 34: 825-831, 2018

【2019年】

46. 末廣 栄一，ほか

頭部外傷データバンク［プロジェクト 2015］の概略

神経外傷 42: 71-88, 2019

47. 刈部 博，ほか

重症頭部外傷に対する治療戦略としての穿頭術の現状
日本頭部外傷データバンクプロジェクト 2009 と 2015 の比較分析から

神経外傷 42: 89-95, 2019

48. 小畑 仁司

わが国における低体温療法／体温管理療法の現況
日本頭部外傷データバンク 2015 の検討

神経外傷 42: 96-102, 2019

49. 宮田 圭，ほか

頭部外傷データバンクプロジェクト 2015 における
重症頭部外傷患者の集中治療
積極的体温管理下における鎮静鎮痛管理の検討

神経外傷 42: 103-108, 2019

50. 宮田 昭宏，ほか

交通外傷による重症頭部外傷症例の最近の動向
頭部外傷データバンクにみる疫学的特徴と転帰

神経外傷 42: 109-118, 2019

51. 大貫 隆広，ほか

多発外傷における損傷部位と線溶亢進の関係
頭部外傷データバンク［プロジェクト 2015］より

神経外傷 42: 119-126, 2019

52. 塩見 直人，ほか

頭部外傷データバンクにおける急性期重症化症例の検討
プロジェクト 2009 と 2015 の比較検討

神経外傷 42: 127-135, 2019

53. 大塩 恒太郎，ほか

積極的治療と非積極的治療の比較検討
頭部外傷データバンク プロジェクト 2015

神経外傷 42: 136-142, 2019

54. 海老原 幸一，ほか

対 4 輪車交通事故による重症頭部外傷の特徴と転帰
頭部外傷データバンクプロジェクト 2015 より

神経外傷 42: 143-148, 2019

55. 本多 ゆみえ，ほか

小児の重症頭部外傷の検討
頭部外傷データバンクプロジェクト 2015 の分析から

神経外傷 42: 149-159, 2019

56. 加藤 侑哉，ほか

重症頭部外傷における年齢構成の推移
頭部外傷データバンク［プロジェクト 1998, 2004, 2009, 2015］の変遷

神経外傷 42: 160-167, 2019

57. 本島 卓幸，ほか

機械学習による頭部外傷の予後因子の検討
頭部外傷データバンクプロジェクト 2015 より

神経外傷 42: 168-175, 2019

58. 小野 元，ほか

頭部外傷データバンク［プロジェクト 2015］における
自転車事故に関連したデータの検討

神経外傷 42: 176-182, 2019

59. 河北 賢哉，ほか

重症頭部外傷に対する積極的体温管理の現状と有用性
P2015 のデータを用いて

神経外傷 42: 183-188, 2019

60. 稲次 基希，ほか

重症頭部外傷後けいれんの検討
日本頭部外傷データバンクプロジェクト 2015 の分析

神経外傷 42: 189-194, 2019

61. 末廣 栄一，ほか

高齢者頭部外傷への対応におけるピットフォール
抗血栓薬内服との関連から

脳神経外科ジャーナル 28: 614-620, 2019

62. Maeda Y, et al

External validation of the TRISS, CRASH, and IMPACT prognostic models in severe traumatic brain injury in Japan

PLoS One 14: e0221791, 2019

63. Suehiro E, et al

Risk of Deterioration of Geriatric Traumatic Brain Injury in Patients Treated with Antithrombotic Drugs

World Neurosurg 127: e1221-e1227, 2019

64. Tanaka C, et al

Intracranial pressure management and neurological outcome for patients with mild traumatic brain injury who required neurosurgical intervention : a Japanese database study

Brain Inj 33: 869-874, 2019

【2020年】

65. Yokobori S, et al

Treatment for Geriatric Traumatic Brain Injury :
A Nationwide Cohort Study

J Nippon Med Sch. Jun 30, 2020

頭部外傷データバンク委員会の構成およびメンバー

（敬称略）

第1回 委員会 1996/5/23

委 員 長： 中村 紀夫

委　　員： 有賀　徹，小川 武希，小沼 武英，片山 容一，重森　稔，
平川 公義，丸林　徹，山浦　晶，神田橋宗行

幹事委員： 小川 武希，小野 純一，川又 達朗

パイロットスタディー 1997, 4–6*

企画担当： 中村 紀夫

参加施設： 熊本赤十字病院，久留米大学附属病院，公立昭和病院，済生会滋賀県病院，聖マリアンナ医科大学附属病院，仙台市立病院，千葉県救急医療センター，日本大学板橋病院（以上8施設）

委　　員： 有賀　徹，上田　聖，小川 武希，小沼 武英，小野 純一，
片山 容一，川又 達朗，坂本 哲也，重森　稔，関野 宏明，
中村 紀夫，平川 公義，藤本 正人，丸林　徹，山浦　晶，
山岡 龍平，山木 垂水，山口由太郎，神田橋宗行

幹事委員： 小川 武希，小野 純一，川又 達朗

プロジェクト 1998 **

委 員 長： 重森　　稔，山浦　　晶

企画担当： 中村　紀夫

参加施設： 熊本赤十字病院，久留米大学，公立昭和病院，国立病院東京災害医療センター，済生会滋賀県病院，昭和大学，聖マリアンナ医科大学，仙台市立病院，千葉県救急医療センター，日本大学（以上 10 施設）

委　　員： 有賀　　徹，卯津羅雅彦，岡田　保誠，小川　武希，小沼　武英，小野　純一，片山　容一，亀山　元信，川又　達朗，坂本　哲也，重森　　稔，関野　宏明，高里　良男，徳富　孝志，豊田　　泉，中村　紀夫，中村　　弘，早川　隆宣，平川　公義，藤本　正人，丸林　　徹，村井　尚之，森　　真，山浦　　晶，山木　垂水

オブザーバー: 岡　　明子，神田橋宗行，北村　博文，小峰　光男，花岡　利弘，松尾　有祐，横溝　宏昌

幹事委員： 小川　武希，小野　純一，川又　達朗，坂本　哲也，徳富　孝志

プロジェクト 2004 ***

委 員 長： 重森　　稔，山浦　　晶

企画委員： 卯津羅雅彦，小川　武希，関野　宏明，中村　紀夫，平川　公義，丸林　　徹，村井　尚之，山浦　　晶

参加施設： 香川大学，京都九条病院，熊本赤十字病院，久留米大学，国立病院機構災害医療センター，済生会滋賀県病院，昭和大学，聖マリアンナ医科大学，仙台市立病院，千葉県救急医療センター，千葉県循環器病センター，帝京大学，東海大学，東京医科大学，東京慈恵会医

科大学附属柏病院，日本医科大学，日本大学，武蔵野赤十字病院，山口大学（以上 19 施設）

委　　員：渥美　生弘，有賀　　徹，石坂　秀夫，大橋　一善，小沼　武英，小野　純一，片山　容一，亀山　元信，河井　信行，川又　達朗，小泉　博靖，小山　　勉，榊原　毅彦，坂本　哲也，沢内　　聡，重森　　稔，末廣　栄一，鈴木　倫保，高里　良男，寺本　　明，徳富　孝志，土肥　謙二，富田　博樹，長尾　省吾，中林　基明，中村　　弘，橋本　卓雄，早川　隆宣，原岡　　嚢，日野　明彦，平田　雅文，藤澤　博亮，古屋　　優，松前　光紀，三浦　正毅，三木　　保，宮田　昭宏，村上　成之，山木　垂水，横田　裕行

幹事委員：小川　武希，小野　純一，川又　達朗，坂本　哲也，徳富　孝志

オブザーバー：井坂　裕志，大塚　光造，岡　　明子，小野古志郎，菅沼　　篤，村越　直春，森　　真，横溝　宏昌

プロジェクト 2009 ****

委 員 長：小野　純一

参加施設：札幌医科大学附属病院，青森県立中央病院，仙台市立病院救命救急センター，東京医科大学茨城医療センター，千葉県循環器病センター，千葉県救急医療センター，東京慈恵会医科大学附属柏病院，昭和大学医学部附属病院，帝京大学医学部附属病院，日本医科大学附属病院，日本大学板橋病院，国立病院機構災害医療センター，武蔵野赤十字病院，聖マリアンナ医科大学附属病院，東海大学附属病院，順天堂大学静岡病院，済生会滋賀県病院，京都九条病院，香川大学附属病院，山口大学附属病院，済生会福岡総合病院，熊本赤十字病院（以上 22 施設）

参加施設責任者および実行委員：

浅井　康文，宮田　　圭，西嶌美知春，佐々木達也，亀山　元信，
刈部　　博，三木　　保，小野　純一，藤川　　厚，中村　　弘，
宮田　昭宏，小山　　勉，大橋　一善，有賀　　徹，中村　俊介，
土肥　謙二，坂本　哲也，大貫　隆広，横田　裕行，布施　　明，
片山　容一，川又　達朗，前田　　剛，高里　良男，早川　隆宣，
戸根　　修，橋本　卓雄，榊原陽太郎，松前　光紀，石坂　秀夫，
卯津羅雅彦，江崎　孝徳，塩見　直人，山木　垂水，榊原　毅彦，
河井　信行，黒田　泰弘，鈴木　倫保，藤澤　博亮，末廣　栄一，
小泉　博靖，重森　　稔，徳富　孝志，宮城　知也，三浦　正毅，
長谷川　秀

委　　員：村井　尚之，小川　武希，奥野　憲司，横溝　宏昌，岡　　明子

オブザーバー：中村　紀夫，山浦　　晶，平川　公義，関野　宏明，丸林　　徹，
長尾　省吾，小沼　武英，森　　真

プロジェクト 2015 *****

委 員 長：鈴木　倫保（2017 年 2 月まで）
横田　裕行（2017 年 3 月から）

副委員長：小野　純一（2017 年 2 月まで）
宮田　昭宏，末廣　栄一（2017 年 3 月から）

事 務 局 ：末廣　栄一，小川　武希（2017 年 2 月まで）

幹　　事：刈部　　博，宮田　昭宏，奥野　憲司，大貫　隆広，横堀　将司，
前田　　剛，河北　賢哉，小泉　博靖，重森　　裕，宮城　知也

参加施設：札幌医科大学附属病院，青森県立中央病院，仙台市立病院，国立病院機構信州上田医療センター，千葉県救急医療センター，千葉大学医学部附属病院，君津中央病院，東京慈恵会医科大学附属柏病院，

昭和大学病院，帝京大学医学部附属病院，日本医科大学付属病院，日本大学医学部附属板橋病院，国立病院機構災害医療センター，防衛医科大学校病院，横浜市立大学附属市民総合医療センター，聖マリアンナ医科大学病院，東海大学医学部付属病院，東邦大学医療センター大橋病院，日本医科大学多摩永山病院，東京医科歯科大学病院，名古屋市立大学病院，済生会滋賀県病院，京都九条病院，奈良県立医科大学附属病院，大阪府三島救命救急センター，兵庫県立加古川医療センター，香川大学病院医学部附属病院，山口大学医学部附属病院，飯塚病院，久留米大学病院，福岡大学病院，熊本赤十字病院（以上 32 施設）

実行委員：三國　信啓，成松　英智，宮田　　圭，佐々木達也，亀山　元信，刈部　　博，酒井　圭一，宮田　昭宏，木島　裕介，村井　尚之，本島　卓幸，海老原幸一，卯津羅雅彦，奥野　憲司，土肥　謙二，坂本　哲也，大貫　隆広，横田　裕行，布施　　明，横堀　將司，川又　達朗，前田　　剛，高里　良男，早川　隆宣，戸村　　哲，濱田　幸一，川崎　貴史，大塩恒太郎，松前　光紀，本多ゆみえ，中山　晴雄，畝本　恭子，稲次　基希，間瀬　光人，塩見　直人，榊原　毅彦，朴　　永銖，小畑　仁司，相原　英夫，黒田　泰弘，河北　賢哉，鈴木　倫保，末廣　栄一，山田　哲久，竹内　靖治，梶原　壮翔，宮城　知也，井上　　亨，重森　　裕，三浦　正毅，長谷川　秀

委　　員：片山　容一，小川　武希，有賀　　徹，小野　純一，中村　　弘，徳富　孝志，藤澤　博亮，河井　信行，田中佐智子，横溝　宏昌

オブザーバー：中村　紀夫，山浦　　晶，丸林　　徹，長尾　省吾，小沼　武英，重森　　稔，三木　　保

〔引用文献〕

* 小川武希，有賀徹，上田聖，ほか：頭部外傷データバンクシステム設立に向けて —8 施設での施行—．神経外傷 21: 125-129, 1998.

** 小川武希，川又達朗，坂本哲也，ほか：頭部外傷データバンク検討委員会報告 —総括—．神経外傷 25: 117-133, 2002.

*** 頭部外傷データバンク検討委員会報告書【プロジェクト 2004】．神経外傷 31（特別号），2008.

**** 小川武希，小野純一：頭部外傷データバンク【プロジェクト 2009】の概略．神経外傷 36: 1-9, 2013.

***** 末廣栄一，藤山雄一，清平美和，ほか：頭部外傷データバンク【プロジェクト 2015】の概略．神経外傷 42: 71-88, 2019.

編集後記

日本頭部外傷データバンク（Japan Neurotrauma Data Bank: JNTDB）が産声を上げたのは 1996 年。中村紀夫先生を中心に開始されたプロジェクトは，その後 20 年以上にわたり重症頭部外傷治療に熱意を持った多くの先生方に支えられて今日に至ります。今回の 2 回目の業績目録には，2011 年から 2020 年の 10 年間に報告された学会発表 138 題，論文発表 65 編が新たに加えられました。JNTDB 開始から合わせますと学会発表 348 題，論文発表 134 編という膨大な業績がこのプロジェクトから誕生したことになります。

JNTDB は国内の重症頭部外傷の疫学調査として，年齢分布，受傷機転，病態等の変遷を映し出してきました。プロジェクト開始当時は，交通戦争の真直中で，毎日のように交通事故の傷病者が運ばれてきていた時期で，特に若年者の重症頭部外傷患者を少しでも良好な転帰へとつなげるために，各施設からデータが集積されました。その後，飲酒運転の厳罰化を契機に交通事故は減少へと転じ，一方で世界に類をみないほどの急速な高齢化は，注目すべき治療ターゲットを高齢者に移行させ，病態や治療戦略もそれぞれの個別性を意識した多様な検討を要することが求められるようになりました。最近は高齢者が常用する抗血栓薬が外傷の様態を修飾し，治療をさらに複雑にしていることがデータとして示されています。JNTDB は調査時期における治療の現状と効果についての検証という重要な役割もあります。体温コントロールや頭蓋内圧の緻密な管理，外科的治療法など，様々な重症頭部外傷の治療経過を集積することで，並行して版を重ねる頭部外傷治療・管理のガイドラインと合わせて日本の外傷治療の標準化のための基礎データとなっています。その結果は死亡率の低下や preventable trauma death の減少が見られたという報告に結び付いています。さらに，JNTDB で得られた知見を広く社会に情報発信することにより，外傷予防の重要性の啓蒙や，復帰に向けた社会福祉施設の充実など，JNTDB はさらに有機的に意味のあるデータとして活用されていくものと考えられます。

この JNTDB を今後も継続して行い，重症頭部外傷に対する治療戦略を常にブラッシュアップし，一人でも多くの人の転帰の改善に結び付けることが，我々に課せられた責務です。来年度には新しいプロジェクトが計画されています。必要なデータ収集のための項目選択，データ精度の確保，悉皆性を考慮した施設選択などを意識しつつ，今後も末永くこの貴重なプロジェクトを守っていきたいと考えております。

今回の業績目録を作成するにあたり，多大なお力添えを頂きました JNTDB 委員の先生方ならびに本学会の機関誌編集委員長の藤木稔教授（大分大学医学部脳神経外科）に深謝申し上げます。最後になりますが，これまでのプロジェクトに情報提供いただきました 4500 名を超える傷病者の方々にも併せて感謝申し上げたいと思います。

令和 4 年 8 月

日本脳神経外傷学会 頭部外傷データバンク検討委員会
委 員 長：宮田 昭宏（千葉県救急医療センター 脳神経外科）
事 務 局：末廣 栄一（国際医療福祉大学成田病院 脳神経外科）

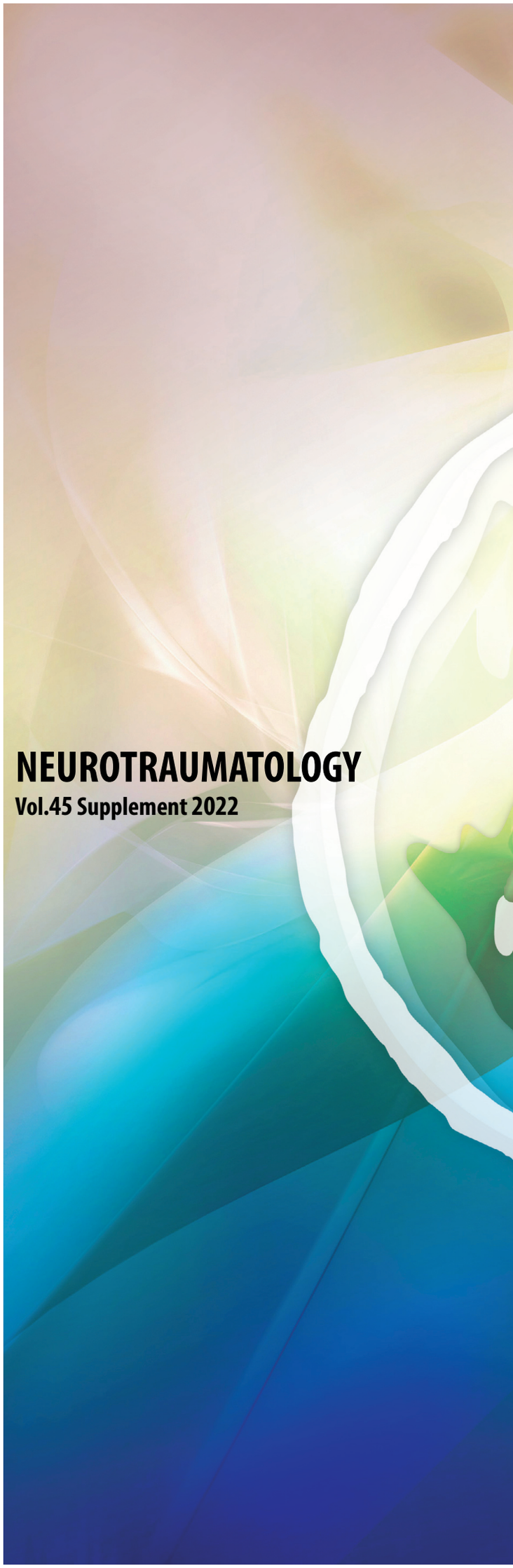
神経外傷（日本脳神経外傷学会機関誌）
Neurotraumatology (Official Journal of The Japan Society of Neurotraumatology)
Vol.45／別冊／2022
2022 年 9 月 30 日 発行

発 行：一般社団法人 日本脳神経外傷学会事務局

COPYRIGHT © 2022 by The Japan Society of Neurotraumatology

日本頭部外傷データバンク業績目録
2011年～2020年

NEUROTRAUMATOLOGY
Vol.45 Supplement 2022



COPYRIGHT© 2022 by The Japan Society of Neurotraumatology